

健康で長生きを願う現代人。

いわゆる健康寿命を左右する重要なファクターの1つとして、当コラムでは前号まで「食と歯の健康」について「噛む力」をどう育み、維持して行けばよいか、1年以上に渡り、お伝えしてきた。

今月号からはこの「噛む力」をできるだけ長く持ち続けていくため、かなり一般的になってきた「インプラント治療」(今後は「インプラント」と表記)について、さまざまな情報をお届けしていく。

当クリニックでも、老若男女、さまざまな症例について、日々、インプラントを行っているが、一般的になったインプラントについて、患者さんの側では、まだまだ、この治療の「イロハ」、基本的な情報を正確に理解している方はそれほど多くな

十 未病の憂い

歯科医が語る現代版養生訓

いというのが、臨床医としての正直な思いだ。

そこで今回のコラムでは、インプラントの「ABC」として、インプラントについて知っておくべきトピックスをいくつかお伝えしていきたい。インプラントは、アゴの骨に穴を開け、土台となる金属を埋め、その土台の上に人口歯を被せる治療だ。土台となる金属を埋める手術後、土台金属がアゴの骨と結合(骨結合)したことを確認し、人口歯を取り付ける。

人生の質を変えるインプラント(治療)

と、簡単に説明をしたが、インプラントを希望される患者さんの口腔内の状態は、十人十色。教科書通りにいかないのが現実だ。

インプラントは、保険適用外の治療のため、コストもかかる。一度、インプラントにしたからといって、歯科医の支持通りの定期検診を受けなかつたり、毎日のブラッシングを怠けたりすれば、せっかくのインプラントの寿命は確実に短くなる。

噛む力の回復を目的にインプラントにしたはずが、予後のメンテナンスを怠ったため、回復どころか、噛む力を失うことにもなりかねず、当クリニックでは、予後の定期検診をかなり徹底している。

土台金属を埋め、人口歯を取り付ける手術だけで、治療が終わる方もいるが、一方、口腔内やアゴの骨の状態、さらには、生活習慣病を患っておられる患者さんの場合は、インプラント以外の治療法で対応しなければならぬ場合もある。

誰もが望めば「インプラント」ができるわけではないのだ。

インプラントは骨に穴を開

け、土台金属を埋められるか、つまり、アゴの骨の厚みが必要になる。またアゴの骨の強度も関係してくる。補てん剤などで、アゴの骨の厚みを確保した後、インプラント埋入というケースも少なからずあり、また糖尿病患者さんへのインプラントは、当院の場合、定期検診でより綿密な検査などを行い、インプラント寿命を延ばしていただく試みも併せて行っている。

今号も含め、当面6回に渡り、インプラントに関して集中的に採り上げる予定なので、インプラントを今後検討したい、すでにインプラントだが、具合が良くないといった関心をお持ちの読者は、毎号目を通していただければ、幸いだ。治療を安心して受けていただけるだろう。

インプラントは、治療そのものと同じ位に予後の患者さんによるメンテナンスが重要なことを最後に付言しておきたい。

顎関節症 ドライマウス 舌痛症

長栄歯科クリニック
亀井 英志
Kamei Hideshi

ストレスは
見える！

すべては「噛みしめ」が原因だった

気がつくとも歯を食いしばっている、…。心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書『すべては「噛みしめ」が原因だった』をお読みいただきたい。*未病、の原因をまとめた良書です。

亀井英志(かめいひでし)

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。

